散木奇謌集標注

一

特別
イ4
3163
98(1)

貴
14
3163
98(1)

村上忠順大人著

散木弁歌集標註

松嶋章花校

帝國圖書館藏

散木弁歌集標註序

従四位上木工頭源俊頼朝臣大納言經信之子也
天治元年奉
白河天皇叡旨撰金葉和歌集雖當時或有貶議而
名肱築集者然今顧其爲書則繼後拾遺集而撰之
最精者也非後世諸集所能及也且其自所詠亦高
邁其集號曰散木弁歌集散木語出於海西戎書莊
子謂無用之木爲人之所散弁也故有稱須豆禹多
者亦弁歌之謂也朝臣藻詞本諸萬葉集者尤多當
夫三代集後斯道稍降之時而獨能奮然泝古如此

林氏圖書

不亦偉乎同時有若藤原基俊世称之和漢才人者
而不能出其右於是基俊輩數謗缺之而竟無損於
朝臣何也意者其先考納言庭訓之所致也納言有
所謂能秉三舟之才名聲藉甚實當時四條大納言
以下一人耳繼有俊重俊忠富藻思二子亦朝臣
之子於納言爲孫嗚呼三世秀於此道者蓋淵源於
納言之母氏耶斯人賢而善綴歌章殊妙彈琴事詳
其家集家集收於羣書類從外無有刊本故世知之
者鮮矣夫朝臣集亦然而世間所傳寫本誤脫極多
不可識讀頃日幸獲一本雖非無謬誤較諸他本爲

愈於是取其歌載在撰集及諸書者校讐之以録異
同抑此集雖近來翫之者尠矣古既有法橋顯昭奉
梁門教命作之註又袖中鈔載數首釋之且京極中
納言密勘亦甚賞譽之由此觀之當時珍賞超於它
集必矣朝臣與法橋世之相去不遠然而梁門有教
註之者不特以其什之佳且貴其能據用古語也余
今尋法橋微意爲之標註其不足者加以諸家説補
以僻案號曰散木奇謌集標註集中之歌有雄偉焉
有新奇焉清詞玅句縱横跌宕無所拘泥實可謂歌
僊耳後世弁歌誤作奇歌亦宜矣後之觀者或據書

名以爲散木以爲弁歌嗟乎斯集之宏麗温雅豈散
云乎哉豈弁云乎哉
嘉永三年庚戌 正月

村上忠順

新撰姓氏

大神乃茂木集の著者たるを知れり顕昭法橋乃注説
に引用せる外にあるやを未だ見聞せざれども
小倉百首乃初句なる源俊頼朝臣父大納言経信卿也俊頼
朝臣木工頭或は京大夫にて従四位上也基俊は比朝臣
歌合の事を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

志かハ河村と胡盧ハあしく意乃むかふる原にゆけ出たるかく
るかりそをも能まで多し彼等がちにもれし多れハ他の
人々みつけてもれたる法を記んにハあらたむかの規則に合ひ
まを背能さまで定ちる能なし蛙といへる弁にやうにいひよらし
くるみ出るるひふあるよハうちゆすに耳能まなをたり能る
説能もなし彼此もほ法で字ハ古鈔に萬葉乃よみかる庭く
いえもふなきをしくもかへ又ふるみを記しもしふまを用ゆもう字ち
出たりとしかるにぬ方るをとりてあるらしきふ之へとこと小ちなる出られ
さしもの能を撰ぶハかのく小もめ作る未集小る弁
杉のまこの集字校へ正さむ乃んハあらきりしらを曲なり能く

狩谷望之か古本とて校行せし本字をえてめでたき物に
あまりて群書類従の字をもし究めのみちさへつら門ゆへあ
らせ者するうちに尾張國名古屋人稲口道直ぬしのおかる古
字かゞ能つたへきをいひしおのか書入たまひてこれか紙ごみ
ちむつかし能こるに字加へ給しら字友かく見ていか能板にほり
てよ能をとハいさハとてさらふかりあちよみらむを之つされど字
あたしふみどもの中にもうかゞて出能しきく法こまいすべき字
阿毎乃萬葉の字法球記の中のおとろこそわか能と思へさし
古語ありてまゐりしかれとかく無能にて書ふいともしかれハ
年ちかき書といへども記されしもさらなるの多さハいとおほくすなれと

[illegible]

蓬廬主人さた

莊子云匠石之齊至于曲轅見櫟社樹匠伯不顧遂行不輟身子厭觀之走及匠石曰未嘗見材如此其美也先生不語用視行不輟何耶曰已矣勿言之矣散木也是不材之木也無所可用故能若是之壽　而幾死之散人又惡知之散木

北邊隨筆云俊頼朝臣の家集を散木奇歌集と名つけ侍る此散木とは無用なる木の事なり莊子を考へて是をうけて謙遜して名つけ侍るなりいはゆる散位散人なとゝ云れこの心を散事とゝ云事も紀中まゝ有

堀川院御時匡房以下十四人の百首を太郎百首とも初度百首とも名付られとゝ初度百首とゝ云ふ心なり事なり

六百番哥合　家隆

とろ人の立ちる庭のさゝつきを
ひゝなもちるゝ千代のまろ春

散木奇歌集巻一

春部

正月

堀川院の御時百首の哥めしける元日のこゝろを

つゝうまろ曙

玉葉　類題

庭とせよひきつゝなれるあろ人のたちるゝあやを代の神ち

堀百

立春日よめる

続拾　雲葉

つゝとそ野はゝ和ゝもけうゝ偽きはまをとゝもむ

続詞花　題

朝原為とよめる

堀川院百首　河内
いつしかとあしたのはらにかすみけハきのふみそ春のたつなりける

作者部類散位部云源顕仲　右大臣
顕房男

建保百首　範宗
立かへるなかよりうへのかきそめる八もろこしのすゝ山たかやまにも年
世諺問答云歯固ハよはひをかたむる意とちひハ近江火切のとちひを用(き)
事しるし
荆楚歳時記云元日食膠牙餳取膠固之義
莫傳抄云加賀御草正月一日大内の餅の上におく大根(さい)ふき草の中にも早きかゝ草やうて御調におへつるか
蔵玉集凉塩草等莫傳抄に同
本居内遠云もちひのかゝみといひけ又四句へつくのに糀蘭へいひけるとあらむ
永久四年百首　夫木　俊頼
くふすらハつれともちひのますらこみうましきかみとうつ　てもとこ加

千載　後葉
古来風体　類題
春のくるあしたの原を見わたせは霞もけふそ立はしめける
一日の日はあしたのはらを見てよめる
身ひとつはこしかたもなき年なれと世のならひにハ立かへりけり
顕仲の君の八條の家にて人々あつまりて十首の歌よみ
けるに年あけハ人々によめる
新千　類題
万代
いつしかと雲のかゝ山をかるは波こそさやかに年もくれかはらむ
春のくめの鏡のそきのはるにおろしけ侍る
つくまにぞ世をもとちひの鏡やさしきさへるもちひうつ
伊勢の宮にて侍るころ宮のかゝみもちひのあけ侍るを見て
よめる

摂政殿下ハ法性寺入道前関白太政大臣忠通公也公の御事ハ続世継物語に詳にみえたり百錬抄九暦八雲御抄明月記帝王編年記等考へし

拾玉集
さほ山はかすみのころもかけてけり春のきぬさやひものとけしを
佐保山に竿をよまれたり後世ハ竿とも左本とも書めり
袖中抄云此哥とハ俊頼か家にて宜き哥と申けり仍て左京兆も詞花集に入られたり是ハ松のたちえをくもてとあれともさちえと心えられたりなとしるすハ並ひ立るなり

作者部類大臣部云贈左大臣長實公
修理大夫顕季男
藤氏系図云長實号六条善勝寺長者贈左大臣美福門院御父歌人

萬きのみちのはしめにうつりぬる君かみかけのなかきをそ見る
摂政殿にて十首の歌よませ給ひけるにつかうまつれる
よめる
さほ山にかすみの衣かけてけりなにをか四方の空はきるらむ
千載　古来
月詣
煙たつむろのやしまを見しほとにやかてもそらのかすみぬるかな
百首の歌の中によめる
詞花　袖中
堀百　後葉
なみたてる松のしつえをくもてにてかすみわたれる天の橋立
大貳長實の八条の家にて海辺霞といへる心をよめる
続拾
類題
春霞たなひくうらはほのほのといそこく舟の音そきこゆる
霞のこゝろをよめる

熊代繁里翁云此朝臣實地へと知りて傳
たゝ古哥の詞とのミ用てよまれたるを
おほゆ〔?〕木ノ川上妹背山のほとりにて〔?〕ハ
細谷川といふへくもあらん古今集流
てハ云この哥とよくも心えたりて後世名
付たる吉野の妹背山のほとりも細谷川
とハあらん
萬葉集七巻　詠河
大王之御笠山之帯尓為流細谷川
之音乃清也
拾遺集春　重之
よしの山みねの白雪いつきえて
けさハかすみのたちかはるらん
山城名勝志云白川ハ自山中村ニ流出
合鴨河古号白川地者從浄土寺村
北今ノ白川村限ニ鴨河東辺ニ九条辺
ん曰白河一
袖中抄云是ハ時よあハぬやうなれと
〔?〕の萩とハいふともなれハ如此詠
也其眞野の萩にて衣ハするなり他
所なハその萩なしと俊恵申き心えぬ
事と
熊代翁云こハ榛原なる事今にされも
〔?〕と當時ハ萩原と誤まるまゝに此
朝臣もよまれたり
夫木鈔　知家
くれそて道のしるへの〔?〕
もとこし〔?〕も猶そ〔?〕
〔?〕こハあしき道にや釈教の哥にみつ
のみちにハあしき〔?〕となりとよめりさ

夫木春二
いとせ山ほそ谷川にあひよりてうきみの衣〔?〕
吉野山みねの桜はさかれともなきハ霞やつれなかるらん
大貳も実ての白河の〔?〕
あとなる
新續古 叢題
いつしかとうちなみ〔?〕舟の〔?〕
霞の〔?〕そよめる
夫木春二 袖中
春きぬと〔?〕真野の〔?〕原
夫木雑十
吉羽山みねのうへみハ〔?〕松の梢は〔?〕
殿下にて〔?〕とよめる
夫木雑三
ふるのせきあしみのこみち〔?〕

まちを釈氏秋林集ゟハおしるさみちぬ
しと作りかくて〔?〕ハ一本ゟおしみをと
みるやまりなりむ
熊代翁云〔?〕
〔?〕此集林葉集秋
夜題林葉ふて既く悪道の意を語り
〔?〕美の言われたハ
りするなど本の〔?〕て美を
〔?〕悪道
とゝゟいへられ
伊勢国斎宮ふ在し〔?〕の哥にも御
遠国の哥よりそしめて次く〔?〕
くうえてり
和訓栞云近江栗田郡 田上大石の邑ヽ
師家とふ所あり師大納言経信々
山荘とゟ見へられ其子俊頼其子俊重
三代住まるより〔?〕の称といへり
催馬樂 走井
〔?〕
〔?〕
入云奈考云蚕かひするゟハ下ゟ簀を
かき其上ゟ萱をしき又蕈にても編てしき
糸たてを置て〔?〕是ハ後世ふて
古ハ〔?〕ハ彼ゟ食物と
〔?〕
〔?〕叶
集ふせの国〔?〕
萱を〔?〕
之和名鈔ふ〔?〕薄兼名苑云簿音薄和

伊勢ふ〔?〕ころむつきの四方の山を
かさみ〔?〕とよめる
都へといそきて〔?〕
田上〔?〕
い〔?〕あるむと
人のか〔?〕
花さそふみ山〔?〕
伊勢の國〔?〕むつきの〔?〕
いひて〔?〕
〔?〕

名衣比良一名錦瑁養蠶器施於其
上令作蠶者也とある是之
然代翁云今按ふ子日遊とてのへふ野
ふ家ふあそと思ふり しへさせるなるむ
三月上巳の祓禊五月端午の屈原の古
事九月九日の費長房のひとしこしき
て山ふ上りなとゝあることをあわる思ふ
正月初子ふも家ふあると思て子いみと
云なるむうえひらハ翁のいふなるを
よりなつけたるなり初子日ふ蚕室を掃
ひ清めることハ初子の日の玉箒と
万葉ふよめることなり
神中抄云後撰胡後哥ニ春日山云て
是ハかうかくて云 人の哥なれハさるさま
及ひとおきてるふとりて思ひ合せへきさ
常陸帯といひてさるくよひのくれと
たしかに定らし 無名抄云常陸国ふ鹿
嶋明神と申社の祭の日女代けさう人の
あまたあるとき其男の名ともを布の
帯ふ書集て神の御前ふおくそれ多かる
中ふさるへき男の名かく帯のおのつから
うらかへるそれを取て袮宜かとらせてるを
女みてさてハ其男の名ある帯なれハ
やさしくて前ふて人のうけ常のやうなる
くくるをとりて男ひとりかくり 説しくなれ
りなとくハ占なとのやうなる事也
拾玉集一
子日する野への小松乃二葉より
ひく人てなきものゝるとなむ
夫木抄　　寄題

ふるさとそのついゐにこそのいとなれハ松となかる
きのふまてかくてよてある
夫木 言壺
まへてハ子の日のよならひして袖のしらなる小松をそひく
別当実行の六条の家にて哥合せられけるに
子日のこゝろをよめる
袖 六条家哥合
かすか山すその小松を子日してからをとかめよよろつ世をみる
むつきの初子の日卯のあやしきをとりむすひつけて
よめる
なかき手にけしあやしき神子のおほしく人もなし
百首歌の中に子日の心をよめる

堀百
いそむ川ふるしの松の川つまいくよへてかそのしるしなりける
雪中子日といへる心をよめる
子日してしめのゝ人ふこそあれハ二葉の松も雪にうもれり
百首の哥の中に若菜をよめる
千載 類題 堀百
あつ野のこまつかれはつみためて袖のまれぬるかな
むつきの七日中宮亮仲實かもとへまかしけるかつゝ
よまそてよみける
夫木 袖中
我うへ河むつきのむるなのかねをつくし[illegible]
とし
仲実朝臣
夫木 袖
ふるさとのふるさみふるつみ[illegible]

子日ふひく人なくてそらしらは山
まつハひとりさひしき宿とこそしられ
堀川百首　国信
おひそむるしつみの松は川つれハ
そふらくて千代のそしらむ
千首　宗良親王
春こともいふはうひ子の日ひめ小まつ
わか引そむ千代も八千世まて
続千載　時仲
いきて世ふわかれしくと人をさそひても
そふらて神のなかゐしそれなき
作者部類四位部云藤原仲実 義忠
孫越後守能成男
神中抄云名くさハ女萎と書て名こと
よめることは同音也花もふくむ小咲草
の字也ふ在り或ハ名くさとハ杵をいふと云
義あれとも六帖ふハ杵の外ふ別ふ名くさとあ
けたり後撰胡後ハ名くさをなそらへとあり
出し八杵とふあるも名くさと同物と思ふる
又いひ八宝鑰ふ八番と云り断春と
云詞之但留と可読別字云々かな
たくある葬の物
然代翁云名くさの事ハ今ハ誰もよくしらた
るき中昔よりあるもの若菜とも読ふよみ
て他の菜の如く若菜ふと摘て食ふ物の如く思
ひ誤れり此ハ万葉ふエクいふてある八此実残
於ひつふさる事なりなくも心えさるし

よのひとことなるむ此集をしゐこの
うれとおれは誤れるまゝにしるされはきるき
なゝしし新とよるは見れは此は誰も
許しや思ひつゝなむ

續後撰　入道前攝政左大臣
かすみしく秋のやけ野にふみ分て
たつねみるものはるのつむらむ

風雅　覚誉法親王
からろむとあるそいうへの
わけのなさけよくしやいつまて
あけのなさけは無気の情をそのまゝ
とかくのえせ

公事根源云御杖　持統天皇三年正月
卯ノ日大学寮より是を奉る由日本紀に
あり又仁壽二年正月に諸衞府祝杖を
獻じて精魅をはらふとみえたり
卯杖のこと類聚国史延喜式等に詳
にみえたり
漢書王莽傳云正月剛卯金刀之利
皆不得行
熊代翁云常陸守ハ今の郡なるむ
書言故事云鳩杖續漢書曰民年七
十者授之以玉杖　授ハ付也　玉杖長
九尺杖端以鳩飾鳩不噎之鳥欲老
人不噎也

屏風の絵にかきたる世にわかなつみたるかたかける（ちよイ）
不しらぬ（とゝめイ）
人のすくすくうれをおくりてゆくかりこともなる

風雅　題しらす　雲業
かすかのゝ雪のむらきえかきわけてまつめつらしきわかなつむらむ
たちひかさんひろさをかゝみをなけのなさけをつみてかくこのなは

七日卯杖にあてゝたる日常陸守統範（爲家續業夫）（常イ　忠イ）
ひらくれなるへておくりたる紙

夫木
すいらくのこしふた（たくイ）なる身なれとも卯杖をつゝそわかなそつむ
色し

夫木
そうのおうつゝるにそつみかれ（く夫）そのしるしたのもしきかな

公事根源云供若菜　内藏寮并内
膳司より正月上子ノ日是を奉る也
寛平年中より始まれるにや　延喜十
一年正月七日に後院より七種ノ若菜
を供す　又天暦四年二月廿九日　女御安
子ノ朝臣若菜を奉らしし事　部王の記
にみえたり　七種ハ薺なつな　芹　菁
御形すゞしろ　仏座なとなり　正月七日
に七種ノ菜羹を食すれハ其人万病
なし　又邪氣を除く術なりといひつたへ
たり
江家次第ニ云卯杖事上古有此儀　南殿
皇太子参上儀近代不行　春宮坊獻卯杖
次大舍人進御杖六十束付内侍所
次作物所進卯杖云々

後拾遺　和泉式部
ひたちなるおのゝやまのつくるをおもへはねのみかゝる袖かな

人のよにえらひまてつかしなき
夫まる春しにつゝる七くさのなわかを見えしのはませ
人のそゝそうけられをおくりたる（たらイ）をと見てよめる（若イ）
いそうちかりけるおもしろきはるをかけりとをかけは
伴墺よ持なるしもつきの百卯日にあたりたれ（たらイ）は
卯杖ちとうそすつると見てよめる（孔イ）
なみそしるこえる山のなみしきに年もうつるとつまやまさむ
そつうの日よめる

夫木　卯杖を
わさとしやその卯の杖のつくとこいは年のつまらぬそれ
おほしなとよみて人のちりつかしなき

神代紀に徒倚とあるなり 訓り

延喜式云齋宮凡天皇即位者定伊勢太神宮齋王仍簡内親王未嫁者卜之云々

白馬 節會は正月七日に行なる文德實錄延喜式等に青馬とあり

新撰字鏡云驄 同倉江反馬白色又青色阿乎支馬

拾芥抄云世風記云正月十五日夾時煮小豆粥為天狗祭庭中掌上則喜粥凝時向東方再拜長跪服之終年無疫気

公事根源云獻御粥 寛平の比より年毎に七種の粥とて白穀大豆小豆栗柔柿大角豆なとし九条右丞相御記に云へり

今本萬葉集に赤小豆粥のすれ作者部類五位部云駿河守平兼盛兵部大輔篤行男 能宣翁云月に坏とよめり

三つ子なれとあるる名に小豆ら煮てまきるる花の赤きとを

伊勢物語に

見てをる

白馬の杭乃えもの名なれいる菓ともくらに座とる所乃名

むつ月の末ふ方つきの月乃見ゆるとて人く

弱なむ神といふを思ひて物とらるるさむ事を集

ふもあるらもあてをれてよめる

まつ毛氏をもち月まもる蛙なるて好をいわる物乃

山家春雪といつる事とよめる

新拾 山里はつとに春のいつしらと沈るまの春乃雪乃 類題

雪はふれもつとをしまもをとて

いつとも見む花まの月をのあるを春はふれもつををとて

百首歌中に残雪をとをる

新後拾 雲葉 立ちつる春のきしはかをみしくをとをもつをを山乃雪のむら消 拾百

俊成百首

春をれうすやをの雪ををむ我身はいつ春ををりつ

大木

いつしらの杜乃冨といつる事をとをる

をるはをををつけていつしらの杜のこまをふ春ををををり 松葉

新勅 春告春 とをるをとをみ春をる勅

をををとは春ををををををををつけ春 類題

雲のたゝりをとらせる

いさゝゝ雲はかつらきさうこはさかまや柳の青ふくとをり春

山家雲とゝいつるふなとる

新後類題雲葉

雲のたゝりせいはいさゝ大まこと雨の日をとゝりさみゝ

百首歌中より公重卿

かけはるゝ水をうこはとゝ思へとも春くをいへの恋をこそとりそり

里イ　山家雲とゝいつる年をとる

雪消水谷かけはる雲の春ふをきるゝふまこゝろ春

おはゝゝをと殿下てとる

山里ハつれゝとおくうこひすの春より春はりゝ春と

玉葉春上　大貳

春ことよなくゝハまれとうゝふをこの
こゝろよハあゝのものゝそはうゝる

拾芥抄云東北院一條南京極東上東門院御所元法成寺内東北角也後移之

続世繕云この東北院ハ云ゝ山のうゝちゝ池のまうゝしもあてゝ松のうけ花の梢も外よりゝれておもゝえ侍るをけおくハ思いやりおく心よゝく無與なゝと云ゝて万葉集催馬楽なゝ小須加奈久と云る同言し其をけおきゝ無管と加めてさていつゝて笠よめゝゝひといつゝも古今集よ吉祈をかさゝ糸ようゝてゝゝゝふものめゝてふ公さ杨のゝふゝさ

あくれハ御廚離小て在所と離ゝ也信濃漫録梅園日記笠寺考一和名抄小四阿和名阿豆万夜西下和名万夜なとあゝちやのゝはゝと八屋の端の餘りゝて今云昔下ゝ一熊代翁云万やハつまやの暑あつまやハ吾妻家の意ゝて妻家くふも同しく妻家ハ神代ゝ須賀宮をつくりたゝるゝて始小て上古ゝう

金春雨

春雨ハふりもれとも雲のこ糸は志ゝれぬものゝそ有ける

東小院乃花さくゝ乃ゝ乃ゝ爭て人ゝちゝくゝ春ゝ又よ

まゝゝゝゝ久ふ梅宮もさゝうゝそおゝゝゝゝ乃ゝ小

雲乃おゝてれてをきゝゝゝゝれはたちまゝて待け

ふ人ゝはをきよゝれをまゝ

かくゝゝゝけ乃き梅とゝくゝきのいふゝてゝ分をよめゝゝむ

梅花夜薫ゝゝる人をゝゝ

梅乃香ハおのゝかゝをあくゝれてまやの乃ゝふひまもゝゝ世

後葉　変題

妻とこもるむためよ家つくるとそのう
これくれこそえる其意なるニ一和名抄
いつよそやち仔仰但し四方よ端あれ
む四阿ともつまやといふゆへ混しけ
るなるへし

和訓栞云うくゐ哥繪の義し後
撰集よみちの国へまかりける人よ扇
てうしてうくゐかゝせ侍る源氏よ
はしてうくゐと思ひくよう也と
のくいへもとこえる葦手とも異
なるふや或説よやと云よい矢をゐ
よみきたといふ事よ輪とゐきて
一首とつくめるとうくゐといふと
えり詩と無色の絵といひ絵と無
声の詩とのへる哥も同く絵よかよい
せるなる一條よえんしものとふよ
似たり

梅花遠薫といふ心をよみ侍る　新古

新古
奏題　人のあるへきよしのとも梅花折りとらわれふかひきる心さらむ（らむ新イ）
大殿よわ哥絵と（おとおわくイ）おおとくかゝる絵とこれ歌よよみ
わしてまれて作あつられも屋乃つまよ女ととこまほれ
折りまへよ梅花さをよちくかして男乃れさし乃らへよ
（梅イ）薮かろりころふ（しイ）とさわきちこむかいかてちわかゝるゝ
花と云ろひそろくる（るイ）ねとよめる
梅花ちる木のめぐよ風もみかもかさねさおよ神そかされる
堀百　百そ歌中よ梅花の心とよめる
梅のそれ色をもやみよかこへとも来つわれてくるあやまちある

作者部類四位部云皇后宮権亮源
顕国　顕房孫権中納言国信男
千載集春上む月の在日比雪のふり
て侍りける朝よ家の梅を折てよう
の朝臣よつかはしける権中納言俊忠
咲きそむる云々二一源俊頼朝臣
梅かえよ云々
作者部類中納言部云藤原俊忠
大納言忠家男
詞花春　道綱母
たれかこのかをはさそくめしそれはたゝ
とへとそ思ふ山ふきのさか
訪へよ十重とうのかう
山家集下
鶯の声をそよりくるほととききて
あかよりもこきこゑのいろかふ
こゑのいろは声のあやとよふ子同し

皇后宮亮顕国朝臣家よて（てイ）梅花薫衣といふ心をよめる
奏題　匂ひくる（くイ）花こそいはようむもの袖はなれてやせまる（ちイ）るらむ
二条帥俊忠のもとより雪の朝よおくりおける
千　咲きそむる梅乃立ちえよ降雪のかさなる（のイ）数をとえとぞ（ナミイ）思ふ
かへし
千　梅か枝よ今（ハイ）や咲きてかさねわるとうきてや人乃ことへとふらむ
紅梅をよめる（カサイ）
風雅　奏題　くれわたの梅かえよ鳴鶯は声の色さへことそ有ける
永百　梅花風よ薫る（れイ）をよめる

もてもやさてハ用映きての義し拾遺集ニ弥重とよめり

拾芥抄云法成寺近衛北京極東御堂関白治安二七供養後一条幸元亨釋書云治安二年法成寺成太相国命二院源ニ為ニ落慶尊師ト也

拾芥抄云法性寺九条河原貞信公山城名勝志云法性寺舊跡在鴨河東九条南ニ今曰ニ法性寺大跡ニ是也

新拾遺
夕たきにほつゝおあちハくイさせてこまりけもりひとさるふち人　光俊

かきこしに咲くる風のふかひまて花のありかと見えもしるかれ

月照梅花

類題
いろはこそみえねとも梅の花のにほひをさへ月のかけもちそへて

柳随風

いつうるへ咲くも中乃さえみかなひく枝のさくめ行はゆく

法成寺（性イ）の営さかりを見て人々あまたまかりて見あはせ

きけるに枝の木はおとろへて侍るを人々はあはれと

よあそふれ道は柳の本よりかりかみて侍るかな（契イ）（りイ）

青柳のいとも折とほへるやされよりわかる人もなき（しイ）

百首和歌中に枝をよめる

和訓栞云ほつてあみハ帆の標縄の事今の水縄なり
雅言集覧云堀川の注帆柱ニ筒をつけて帆綱を風にまかせけるつなをきくる也新撰六帖集云ほつてとハ帆柱をたつるとて中ニつくるなる柱のやうなる木也志めるをハ帆かくる縄の名也
能代翁云二三ノ句ハ但説とさる事とたきこゆれと今按ニ帆ねおろそかにせよて上よ縄をふるとふうれて柳のゆれき風にふかるハ帆も手縄も用心して舟とや立つるらふ意なるへし
百錬抄云寛治八年八月十九日高陽院歌合哥人清撰経信御為判者高陽院歌合桜左　齋院摂津君花つもるらをさくらとみまし山さくら風にまかさふたてもさうせハ

右　俊頼
山さくら咲きそめしより久かたの雲ゐに見ゆる滝の白糸
経信卿判云左歌いとらちをかしう侍り右哥ハさらにひやうふよりかれるやうにはわれとはさらにもかくさめ加茂哥合五番俊恵哥の判詞にこの雲井に見ゆるの歌を引てこともなれたる事あり
井蛙抄云是ハ晴の歌の本躰ニ申へきにや中右記云寛治八年八月十九日今夜関殿於賀陽院有歌合興云く
拾芥抄云高陽院中ノ御門ノ南堀川東南北二町南一町後入賀陽親王家

夫木
堀百
藻かり舟ほつしのあひた河そひ柳の影にまみしられ

二月

風雅　類題
永百
いかにさそふ花といふ事をとよめる（ことゆるイ）

めかしくもさそふる風の吹くれはかけても枝乃あをやきこの花

賀陽院殿の歌合に桜をよめる

金葉
時代不同哥合
山さくら咲きそめしより久かたの雲ゐに見ゆる滝の白糸（ふしイ）（白井）

修理大夫顕季卿六條の家にて桜の歌十首人々

よみけるによめる（ナミイ）

三輪の山花さきにけり杉たてるしるしもみえす霞の立てれは（への下イ）

夫木　夫ノ此ハ夫イ
あらしやは霞もつゝし夜すからまてと風にたちへたてそなし

作者部 类散位部 云藤原顕季 正四位下隆経男 夫木 慈圓

万葉集 保延都公等 麻通良佐用比茶 都麻故非尓比例布利之用利於逐流夜麻能奈

石見之海打歌山乃木際従吾振袖乎妹将見香 此歌或本云旬 高角山とあれば打歌の下部奴の二字脱たる

さるを既字くしくて後ふつたの山とよみて書るより一の名所といふなるべし高角山をいはゝ神と云

立田山神ろ心例ありや考て袋冊子云後拾遺歌云後拾遺の木多法の摘云是は伝法国極楽に風早き所行

諏訪明神社風祝と云物ヲ置テ日毎ヲ春始深物置居テ祝ヲ百日之間尊重又也然者其年仏法開ニテ為農業吉

也自ラ春也是ハ能登太夫資基卿云人俊頼ニ

其意也是ハ能登太夫資基卿云人俊頼ニ

諸ニテ云如此事家文哥ニ読ケ思也下ニ

俊頼ニ云縦下也俗事也如此事更ニ奇

詠不便云偽有其由之処後悔ス云

黒事歟 品後悔ス云

萬葉集三

今代定之樂 有者表世者表ル鳥尓

夫木

橘の花

夫木 元藤の宮 袋冊子十剖

遠見山类 橘花

夫木遠山花

类題

毛吾羽成奈武

大江佐国詩云六十餘回看不足他生定作愛花人

源氏鈴虫巻云あやのそをひてきのめひはすてゝ

斎宮女御集

中宮大御堂の八重橘を折て隆季朝臣の

中宮亮御堂の八重橘を折て隆季朝臣の

隆季卿

中宮亮仲實卿

下文

題等

山城名勝志云齋院大宮一条以北

千載集　実房

[illegible]

[illegible]

風雅集　後鳥羽院御製

[illegible]

続現葉春下　為世

[illegible]

山城名勝志云今大北山ト北山ノ村野社ニ在リ鹿苑寺ノ辺スヘテ北山ト云

夫木　類題

[illegible]

[illegible]

続後拾　雲葉

[illegible]

夫木　類題

[illegible]

千載　類題　月詣

[illegible]

山城名勝志云鳥羽殿城南寺森辺云〻森前有呼御所内田地百錬抄云嘉承二年三月五日行幸鳥羽離宮数日宴遊ノ日還御有ニ勧賞ニ

取行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夫木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枝を伐るかなをとりてといひ枝きき
本をきる枝木といふ
山家集下
わしの山上くらからぬみねなれは
あたりをはらふ有明の月
後拾遺　式部
世の中をおもひすてける身なれとも山さくら
花さかりの人の心わかなれは
六條修理大夫集　前木工頭俊頼
わか宿の小山の花を人にをしみて
まかりくらしてまて春風を云ふ
えしやわか身は花をおもふてとそ
その家に云
上文
ききさても花さく人もいてはかり
かはきらの風わかをも

はきいてやまひとてくるとてあたりの木ともをきりすて
ありしをたまふと見てよめる
とりかへる梢をきれはいとしくもあらしふく八重桜の花　山イ
やまさくらちる風をもおほつかなくもちりぬへきかな
身のうさをおもふにおいてやむやとさける花さくらかなのくるしく
花さかりにまかりたるをりて修理大夫能季のもと
よりおくりて侍る
春風にあらぬ身なれと桜をはなたちぬる人にはなかり
返し
見る身はなかにもそへしとみる人をかせふかすなとひたるこの花

山城名勝志云花山在清閑寺山東隔谷東ハ宇治郡西ハ愛宕郡也此東南麓有二花山村一
續古事談云堀川院ハ時内の女房あまた召てのちに出しかして花見に花山へむかひたるに殿上人馬車をとりて相ともに女官けさ馬にのりてさうひたる云々花山に住つきて人々あつまりをあけて御のかふたくみし　ここに管絃いりたる蔵人廣房題を出し序と申し盃酌なとありて後れ給は連歌なと給ふるに山さくられ師時胡は付て云ひける古きおもやさきをとて内へくりまゐりて事とりせしめ
春花山に亭子法皇おりゐまして之らせ給ひけれは遍昭君ていとくいてもうちし花山に云ていつをはあれは心ありける山とはかなあるなりし

堀河院の御時花山といふ所のさくらみて西にかへ
りたまうて後に女房たちをみなさふらはせたまひけ
るを人々して乃ちにつきまいらせたまひけるに
ことありてえみなうらやみあさせおりにさふられた
ものあらひてまつりまて池のまといひやせたまひ
あると蔵人のつかうたてあらひてうちまで参り
たるをいひむして馬つかさのをのはとつふつかりして
速まいけとおもせたれは宮首をあさうくさまま
あかりてよめる
むかしたちなれし山の花は風もきくてもとうてもやられ

妹背山の考玉勝間にいはく 見毛知夜麻は万葉集十四巻にいはく たなりなる名所集覧に上野群馬郡にありといへりされと山はつくにの考へし そこにいふむは羽含の万葉集に羽裹とも書て古語拾遺に育の字をあてたるそこにのせてむにはおもひよせて つくむ
山城名勝志云下桂村在川勝寺西河島村東上桂村在下桂村乾

又人にかはりてよめる

梢にはかへりもあへし山さくらをしていぬる人しなかりせは

澗底花といへる事をよめる

類題 夫木
いかにせむ谷ふところにおひたちて木このもとにむもるゝ花のかけ

二条帥俊忠のもとにて山里にて桜柳交枝といへる事をよめる

類題 夫木
あなかしこ桜の枝にこそ柳のいとはむすほほれけれ

深山桜といへる事をよめる

雲葉
風ふかはかならす山にまちてやみむその桜のちるこのもと

花色満人

山城志云高陽院高一作賀在中御門南堀川東南北二町南一町後属賀陽親王第

大日本史曰堀河中宮諱篤子後三条帝第四女也陽明門院養為子治暦四年為内親王延久元年叙三品五年為賀茂斎後三条帝崩罷職承暦三年准三宮給陽明門院封邑千戸寛治五年為女御七年二月立為中宮以関白師実為仮父饗於賀陽院三日時年三十四長於帝十九歳長治元年遷堀河院嘉承二年薙髪為尼永久二年十月崩于堀河院年五十五

類題
人はみなちるををしむる桜をもこすゑにかけてちらさすもかな

堀河院の御時賀陽院殿におはしましけるころ中宮の御方の女房たちと花見にまかりける舟にのせさせ給ひてあそひけるに殿のみなみの池のみきはにさしよせて花のしたにて舟よりおりて遊ひけるにさくらのちりかかりけれはおほせ事ありてとみにえよみたまはさりけれは

天の代のさくらふりける梢をもあはせけてちりぬとも

故源中納言おほ人にてさかりなるを梢にかけてこの岸からつらき
つまことをあつまをかくはつくまし

出城志云桂離宮桂上下二村藤俊忠別業藤顕季別業源孝清別業見散木集

和訓栞云ゆかり　縁あるをいふ　所縁と云

竹取源氏狭衣宮花宇治拾遺色葉の物語ゆゑ風と云る病のまゝ多〳〵明石巻ハ流風とひきあてゝ云ハ著聞集ハ風病と書ハも云

一本先けさ咲ける　夫木

いつゝ〻ふ花のうゑとみえつるハ春をつる杉うゑを

修理大夫のかつら乃山さくらまうゑ乃年を庭

のゑ乃ゆくさきゝゝとふ人〻ゆゑてあそび

くらふあるかゝりけるもて

こゝ〻ちもとやのまとのひゝれ花のゆゝりふこゝろと云〻ハ

花

人さとゝ寺男ふ〻ハあるものをものゆゝりといれゝるれ

風のゝおこりてんち乃ゝ所すおゝえ〻ゝ乃花ちる

なりて

あけゝ乃ゝ風ふゝ乃ゝ分ゝ乃ゝ花のうゝとゝてみれ

百錬鈔云永久二年八月三日　皇居大炊御門焼失天皇遷幸長實朝臣万里小路亭後日遷幸小六條院

和訓栞云おやゝく物のゝ〻ゝ〻ゝ〻ら〻ふ〻ハ望〻くの義ゆゝ〻ゝ悦恨と云ゝ

金葉集ハつゆのゝゝらゝ草のゝもゝ

ゝ〻ゝ〻ゝ宇治拾遺ハ杖ハゝゝ

ゝ〻ゝ〻ゝ副則〻礒則のゝゝも有〻

詞花集ハいく枝風ハゝゝ

禁秘御抄云南殿櫻在紫宸殿延角是去畧自宣創樹貞観此樹植根繞清涼上滝守奉勅守之枝葉再盛云〻近樹堀河院御守已来朱也

大貳長実卿の亭ハて張合をゝゝ

花ゝゝゝゝゝゝゝゝ雪ゝハ樹ゝの人ハふゝゝと思ゝて

花ゝゝゝ

永百　落花

風ゝけハ樹ゝハいとの人ゝて雨のゝゝゝ多みてゝゝゝ

春ゝ越山　超イ

類題

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

桜殿下ゝて人〻ゝ十首ゝゝゝ　清ゝゝ桜を

ゝゝゝ

夫木

ゝゝゝゝゝハ花ハ咲ハれハ清ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大裏ゝて東殿の桜をゝゝて

源氏相木巻云やせ〳〵ふひたるも徒然草云むくげのあさまく花さらひて毛をけづるをひらせて云〳〵
諺草云瘦髑髏　髑字荘子に出
櫻品云櫻木葉共に常の櫻に似て小花五枝半一穂とる花に見る所を名を天武上講と云実六月熟す色黄にして味香に似たり俗云ふ
夫木鈔
かゝるかれるもゝやさんだてのかみのゆかりとぶくゝにかをるを
枝木に弱息〳〵枝木をゝくゝ
枝木　焼木をゝ
作者部類云権僧正永縁　大蔵大輔
永相子

九重ふたちるまれてまれ長風ふれみをて花のみやひ
折りまれるところ大貳長実卿のもとゝ
夫木
山ゐをさゝ
大貳
ゆ橘はなを折て
夫木
この
ゆ
永縁
教縁
夫木
遠ゝ
暁天
見花

新古今
山ゐのゆふ
天の羽衣
西陽雜俎云天人衣無縫
崇徳院御歌
古今集序勤云やまとうたは人の心を種として万の言の葉となれり
俊頼朝臣云妖艶之義頗やさゝ詠
付俗人之詞任意欲無其謂
和訓栞云やさゝ和りき意ふ云と本とは情ありて風流なる人は物の
みな心つくはせられて和らぎ柔れは同義
ふ婦せり万葉集ふ世中をさゝやさ
ゝと云ふ古今集ふ年の思ひもすて
やさゝ味なる源氏物語ふ人さゝや
さゝとゝゝ

夫木　題
かゝるをやまのあるをたつのゝむらをさゝあてたゝひさふをり
見山花
夫木
ゝ山ゐ
大貳長実卿の白河の家にて花下旅宿
ゆ
ゆ
夫木　題
越山見花
夫木　題
万代
の出の
ゆ
ゆ

後撰　読人不知
うらやのみかしろ衣うちきて
あまのふりこそおもひられぬる
源氏初音巻云かいねりいとし山吹
のみつしろ衣むつましてあへるむ
石原正明云蓑代衣ハ雨衣とて今合
羽とよふ也平絹ニ蝋をひきたるもの也
北辺随筆ニ雨衣の図あり考ふへし
詞花集　住あらしたる家の庭に桜の
花のひまなくちりつもりて侍りけるを
よみける

堀河院御時中宮の御方にて風静花香といふ
こゝろを
梢には吹くとも見えて桜花かをるそ風のしるしなりける

金葉 類題
源仲正の家にて人々十首歌よみけるに
桜をよめる
おのれからちるをやまてそむかへしみかしろ衣花もこそちれ

落花満庭といふ事をよめる
詞花 類題
ちる人もちらぬも花の庭のおもはちりてそ風もみるへかりける

大貳長実の白河の家にてよみけるに
まかりてよめる

拾遺愚草上
しかすかの浦の松風月さえて
松ふくたまのたえまなりけれ
続草菴集連歌
ちる花もみえすかゝる花かすみ
松とふく花のたえまとそみしよ

詞花 類題
しら河の春の木末を見わたせは松こそ花のたえまなりけれ

花をよむといへる事
桜花たちかくれたる花の梢には梢の人のおもふさまにしやは

落花随風
ゆきとみえてふりしく庭のいとのうへに吹そふ花をさそふ春の山風

類題
春田落花
春の夜のやみにし風のふきさそふ花をちらさしやそ

類題
落花厭風
青柳のいとにて風をむすひとめて花のあたりにやとるとそ思ふ

池上落花

詞花　師賢

池水のみきわもしらぬ春の日に
なみをぬきいでぬるかはやな

後拾遺　匡房

[illegible]

神社考云行圓鎮西人寛弘二年遊帝城頭戴宝冠身被華服都下呼為華上人云云以圓衣華俗呼行願寺為華堂百錬抄云寛弘元年十二月十日皮聖供養一条北邊堂行願寺是也

拾芥抄云雲居寺華園向祇園南以呂波字类抄云雲居寺美和四年参議真一奉為桓武天皇建立云々新古今家衡

いとなくて松にとりきせつるかな
ゆきのおくの松のゆふかぜ

類題

[illegible]

雲葉
類題

[illegible]

尋山花

[illegible]

かくれの梅さかりなりとまてしてあまさまりて
惜花

[illegible]

類題

[illegible]

雲居寺花盛

類題

[illegible]

作者部类云隆原　大貳經平孫
若狭守通宗子
拾遺恋一

わびしてもさのみいかりはてもきき
[illegible]

後拾遺集に社風ふきたるとも
ふるかぜにとよみなれはなほ
ひかりきとそり

類題

[illegible]

花下日暮

[illegible]

留客

[illegible]

白川の[illegible]

[illegible]

詞花
後葉

[illegible]

花漸少

類題

[illegible]

[illegible]

題賜注云小島の法さきゝハ万葉寄云
波ゆゑ[illegible]
備前国ニあり児島郡ニ郡也
有形り又陸奥国ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
浪間従の寄ハ万葉集十巻ニ出て
結句君ニ不相四手ゝあり
拾芥抄云圓宗寺　後三條院　本名圓明寺
元亨釋書云圓宗寺在仁和寺
南莊嚴冠都下
古事談云圓宗寺八本圓明寺之
而ヲ宇治殿被仰云圓明寺山崎寺
号也云ゝ依之サキ云圓宗寺ト被改
ケリ
作者部類散位部云藤原経忠　権
大納言経輔孫摂政守師信朝臣子

夫木
類題

類題

類題

類題

拾芥抄云雲林院常康親王造遍昭
僧正寛平在行幸
古今栄雅抄云雲林院舟岡山の東ら
[illegible]

拾芥抄云圓融寺仁和寺法皇御在
所
日本紀略ニハ圓融寺ヲ圓融院ヲ
[illegible]

[illegible]

続千

玉葉中御門右大臣

類題

源氏竹川巻
[illegible]
古今集餘材抄云[illegible]と云ふ名とかとて又と其末歴たり[illegible]
[illegible]聞云[illegible]

千載集　実宗
[illegible]
永縁奈良房歌合大治三年二月十日
散花の哥一番の右の夜判者俊頼
朝臣頭注云[illegible]夜妻[illegible]万葉[illegible]夜妻
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

堀川院百首　隆源

[illegible]

出家集

[illegible]

万葉集十巻庭毛薄太良尓云庭裳
俗抒呂尓とあれいかどろもこゝ同ゝ
雅言集見云ゝ蔵のかゝけさ
ゝを云ゝ

熊代翁云此ゝ万葉尓ホトロ尓ホトロ
[illegible]
葉おちゝ[illegible]ヨロと云尓同オヒヨロ尓
通り物ゝ[illegible]聊ゝ[illegible]ゝ意ゝ同ゝ　辣字
薮字を當たるか[illegible]
顕注云玉田横野ゝ一の岡不名〻陸奥国
尓あり或本尓ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]
ゝ共尓馬毒ゝ万葉集尓馬酔木と
[illegible]
可付何説乎又ゝ毒ゝ[illegible]
[illegible]
の如ゝ[illegible]
塵添壒囊抄尓万葉集尓云取製云ゝて
此歌を岩ゝ尓見き認ゝ馬酔木とあせ
[illegible]

かゝる[illegible]

[illegible]

堀百
[illegible]

夫木
[illegible]

堀百　下学
[illegible]

夫木　类題
[illegible]

夫木　类題
[illegible]

万代
[illegible]

安志毗とゝゝ[illegible]
かつみの事　諸説區区山彦冊子尓
[illegible]
堀川院百首　隆源
[illegible]

熊代翁云此の袂と筐のかゝりかゝて
つみのれるゝ[illegible]
顕注云ゝ雨ゝ微雨ゝ尓雨ゝとゝめゝも
云ゝ式ゝ人ゝ腰雨と被執たる尓や髓脳尓
[illegible]
腰かゝのかゝ[illegible]雨ゝとゝれゝ下袴の
堀川院百首　仲実
[illegible]
[illegible]
顕注云ひろのゝ[illegible]と云事不審ひろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

堀川院百首　国信

[illegible]

題匡[illegible]地不名若[illegible]野を[illegible]日本紀[illegible]朝小野を踏[illegible]万葉[illegible]内の大野小駒迄[illegible]其草[illegible]野[illegible]和名鈔云鷙[illegible]音四和名太知今按古語云倶知兩字急読屈百濟俗号鷹也見日本紀私記

堀川院百首　国信

[illegible]

作者部类五位部云雅忠頭藤原家綱　甲斐守章経男

夫木

[illegible]

永百

[illegible]

夫木

[illegible]

堀百　雲葉

[illegible]

後葉　类題

[illegible]

家綱

[illegible]

和名抄云兼名苑云蚌蛤一名含漿　和名波万久理

古今新聞云[illegible]

拾芥抄京程図修理大夫家在六条南東洞院東

夫木　後頼

[illegible]

[illegible]

夫木

[illegible]

[illegible]

类題

[illegible]

作者部 类庶女部 云京極前關白家肥後 肥後守定成女

長明無名抄云井手の大月の堂の前大かう山吹ゆり き其花の輪小土器の大さ成ていと〳〵多く重て見侍し又井手川の河水就てひまもなく侍し花の盛小金の堤をつきたるやうにて侍し小勝れて多く侍し井手の蛙外小侍るを是井手川小の五位色黑きやうにて云々ふもあり寸尋常のものゝあるいとをかしきもあり寸常小水小のみをして夜深るほゝ小鳴かはゝしくぬ物あはれなる事ふて見侍るを

作者部 类云源国信 六条右大臣男山城名勝志云国信卿亨ノ或京程図在錦小路南坊城西四条北朱雀東

堀河院御時は肥後ゝとゝよゝやゝ海つきあり

きゝわたりてゝ（義イ）すれいまわらとゝぶむを

ひつけうるる

千載

うのくよやゝ山吹をうつしていみそのゝつのゝうゝをゝゝむ

かゝゝつゝまゝまゝと宣旨ゝゝ

山吹のおこりをとひて（お訪イ）きゝりたまゝゝうゝそのかゝつゝゝむ

故源中納言國信の坊城ゝ堂小中宮亮仲実ゝ

侍イ

侍ゝ侍人ゝゝあゝてあゝひゝゝ（侍イ）ふ池のみゝゝの山

ぬゝきゝりゝて侍ゝ侍ゝゝ侍人ゝ侍ゝゝけ

ふゝゝゝ

堀川院百首 題仲

山川のゝゝふゝてゝゝゝゝゝの

風のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

拾芥抄 西京園在八条北西堀川西故播磨守師信領安藝守經忠傳領

回国雑記

ゝく琴 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山城名勝志云観音寺在泉涌寺内北側世号今熊野観音按元泉涌寺同寺故凡此邊山本左大臣緒嗣公第宅地也

和名抄云柃灰蘇敬曰又有柃灰焼柃木草作之並入染用今按俗所謂椿灰等是也　又云柃玉篇云柃左加木　漢語抄比似前可作染灰者也

柃の字は古事記傳十九巻日本紀歌解七巻続風言別二巻万葉考三巻山彦冊子上巻雅語上巻三樹考ぬぶ

和訓栞云紫色ハ灰をさすものなり依てあしあゐハ灰のさまもよろ氏ハ木のをひあれとつハ灰をいつかつ一今ものとよ

梅ハ松の誤り諸本悉皆誤り

観音寺はの谷乃をとゝ山て晩見花と云事

夫木　の

ふ山ふ山て花のくれ中ゆきこの夕ひとをさそ

殿下御十首歌上

夫木

かゝゝ山さ山ふちよりさしく雪ゆきつゝ乃明かり

屏風乃絵ふ藤さきゝ乃ゆ部ふ花人ゝ乃ゝ所な

ゝ山ゝ山ゝたゝ梅ゝゝふ花ゝゝゝ乃宿とゝつれい

絵理を文部季観音寺の絵ゝの谷ゝゝ乃ゝゝ

ゝて見ふ乃ゝゝふゝゝゝゝ花ゝゝまゝゝゝ

ゝゝゝ

千載集　実宗

ゝゝゝゝ

作者部类五位部云皇后宮權大進
藤原時房　上野成經男

古今雜下　紀のとしさねがあいのりけるふねのりてはべりけるに　紀のとしさね
ふるさとをいでしまつのあらなみに　ふねのりてこそかへりくるなれ
ふるさとをいでしまつのあらなみに　ふねのりてこそかへりくるなれ
　業平朝臣
ふるさとをいでしまつのあらなみに　ふねのりてこそかへりくるなれ
里とおもへばさらぬかりくり

拾遺集　源景明
風をいたみ　ふかぬ日なくふくなるに　ふねのりはてるあまのつりをか
拾芥抄云　栖霞寺　嵯峨野ノ西
本朝文粹云　栖霞寺本ト栖霞観也　昔丞相遊息所遺者泉石之声　今大王紹隆所供者香花之色

三月晦日　けふ房ことふあるきたるそてあてあ
わすれあるそてあをひむといひつけたりし
うちのさそりこそあるとまてえあるさりをる程は
ふるそれいかにとりおりて待りをる
ふるさとのものをあをををををををつる
そをふををいのれををかけり
をををををををを

雅亮装束抄云四月一日ゝかさ
ゝそ白きゝ〻ものとゝんひトゝ
さゝふさち白さそゝひゝ白さ汗
ちゝをさゝるゝ
藻塩草云ゝゝゝさゝ更衣の才ゝ
夕花のゝゝ表白くゝゝ同し

頭注云みのひもゝきゝ〻神籬ゝ神祭
の具ふハゝかてひらてゝて柏葉ふさし
て飯茶と入ゝとくゝとハ神祭ゝしてか
の助ふをゝゝちゝゝゝゝゝゝさゝゝ梢
とをゝゝゝゝゝゝ同ゝたゝふゝハたゝ
ゝふたゝむゝ

散木歌集第二 巻イ

夏部 四月

百首歌中 よ衣ゝ乃ゝゝゝゝゝ

堀百

夏衣ゝゝゝゝゝゝ

崇神天皇紀云神籬斯云比莽呂岐
袋冊子三　文時
ひもろぎハ神のゝふうけつゝむ
ひもろぎのゝふうけつゝむ
能代　翁云此歌ハ比毛呂岐の意を誤りて未深くうつのゝ代ゝ下句ハやうけて見ゆ
見ゆ代下句ハやうけて見ゆ
ちはやぶる卯花とゝ深くゆゝと二つ見ゆ
冊子のハすくなくとゝ
袋
金葉
公実
雪のゝとくゝいとて咲る卯花
小野の里人
俊頼朝臣詠卯花歌云卯花の云ゝ位署不書ニ献之人奇ゝ思之処其義歌中云ゝ是独歩ノ時事也云ゝ
題註云下人の知かけてゝ云ゝ
くゝさゝ云ゝ枝ある木と二本柱ハたて
支枝ハくゝさゝ
ゝゝゝ

為忠集　按察公

夫木　郭隆卿

夫木

夫木　堀百　夫木

夫木　堀百

夫木

題輔

題忠

題

題

題

題

顕注云五月蟬色送麥秋と作り
むしの秋八月云く
礼記月令篇云孟夏麥秋至
蔡邕月令章句云百穀各以性為春
熟為秋故麥以夏為秋

四句こめれるれ木末隠万葉集
五巻に許奴礼我久利早とよめり

拾遺集
たち神なくなくてゆく寺
ゆ五のそらにもし

月清集
家をむるのみのみのそらと
なるる虫のさそらふる
枕冊をそらに忘れる和云

夫木
みちのくのあやめの秋色そなるとて山ちとこそ色ひ初くなり

郭公未遍

ほとゝぎす夏のつきすとやすらく山のこゑ夏ふかくなるこゑ

五月

来聞郭公

類題
時いまつちさてをむ来とをとの橘の枝ふ時くなり

伊勢に侍る時五月一日郭公のいとく聞き
ふるかの者のもとに守イ
郭公なくこゑ五月とこゑ
ひとふよもすがらなる声をきゝ

夫木
そらめ殺をゆ仏書に無始とをを
かくまれを殺ー雑上巻寺の寺
の西考併をー
兼載雜談云後頼公歌上の上手殺れ
し飛とたら哥多ーこゝをもつ生ふ
いくひ付を云ふ体の殺家集に多ー
熊代翁云ほゝ殺ゆ殺ゆ殺ゆ
語をぬくみて声をさやふいく
さ句意
顕注郭公千首中に殺ふいを
ふおおたてゆ云ものおおミハ
五月許歌花諸の鳥若蛙を取て
木枝をに買きゆくまあり足をを寺
のやおおしいハ郭公弁を古髄脳に云
ゆくこゑにふ殺九を多音殺ゆひて
ゆをを殺音手をゆて四五月ふをさ
をゆれ其ゆてのゆー契り
ー殺ふ出て郭をこをとゆありくゆ仍
て殺ゆひ殺ふ隠て来もをすゆくこ
ゆくしとつやをあるをまりふ
ゆをゆ殺て五月ふ成て殺ふおをたて
其殺殺てゆをれ古殺ふ殺云ゆり
夏の山を皆ゆをををやゆ殺てゆくむこ
ゆゆ殺ゆ声ふ来ゆをてゆてのぬ
しのゆをほくをすゆと名つけゆる
こをゆ哥をを皆ゆのゆーとゆも
ミゆりをとゆ云ゆををもゆを
ゆをゆれをていゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
殿下の郭公をよらゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木後
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木前
郭公なくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木夏三雜四
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

夫木
ほとゝぎすなくこゑ聞ゆ殺ゆ殺ゆ殺ゆ

頭注云此哥心寛平法皇宮滝幸時
奉神手向出給て詠給ふ哥よ云
はたいはさくさくりあへそもそも白山
此哥とおもしてよろこんで初の
哥に紅葉の後を手向給ふもよろ
しく紅葉も青葉のゆさ
取あつめてぬけとゆもと

続後撰
時をまつ人もうらやむひさこまい
雨やなれさ[illegible]ぬ[illegible]

伊勢集
夜あけたれば生[illegible]
頭注云[illegible]
西下[illegible]
[illegible]

夏

郭公乃うこと[illegible]

[illegible]

夜深聞郭公

類題

[illegible]

郭公[illegible]

類題

[illegible]

聞路郭公

類題

[illegible]

家題注

山里て郭公を[illegible]

[illegible]

新葉集
[illegible]
宗良親王

六帖
[illegible]

萬葉集五
得保都心等麻都良佐用比米都麻
朝非乃比例布利之用利於返流夜麻
能奈
和名抄云領巾 日本紀私記云比利 婦人項上
飾也

高陽院歌合 左勝 拓伴君
[illegible]
右
[illegible]
経信卿判云左哥[illegible]

○散木集

暁郭公

[illegible]

百[illegible]郭公[illegible]

[illegible]

[illegible]

題注云神山と一夜出宿して木とりそろへと祈やすらと云々此歌の侍る山之ゆりの出るりの出るりの出る

金葉

[illegible]

按設左大臣

神中抄云後頼哥云時ゝ云、或人難云
俗事ゝ[illegible]父をいとしく母といふを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雅言集覽云ゆかしとは男女の事ばかりにあらず事物にもまた已ばかりなる中にもいふなり熊代公羽云哥四句にもとゝまりこのゝちこの比多く誤れりと見ゆなどゝ云ふ手ぶりゝ云ふ歌の四句と同格なりとゝ見るべきか

和訓栞云ゆかしとは木綿者鳥也四境の祭に雞に木綿を付て四隅に放といふ

古今集　後撰　元方たつふる人いさこれいまき名のをゝなれいむしゝも今はもゝすと云いくも初学云いさ否之人のゝりの事もゝるやと問ときに不知といはゝそもとも又いつみとゝゝわもいふ否とゝ云ふもてゝ意とも成れいとわりて万葉にいさとゝいふさに未知ともかゝる

夫と我ことうゝ（いい郭ゝ）ものひとゝ人やゝうゝ事

ゆゝ

今夜さい祈あゝ（ゆゝ）ゝ河ゝかゝゝ事のゝゝと云ふ

五月ゝゝ人のゝゝふまゝゝて秋ゝゝうゝ

かゝゝゝ郭ゝの物ゝ事ゝゝ者ゝ女の

ゝゝゝ

夏の来ぬほゝゝゝ待ゝて（ゝゝ）ゝゝ

ゆゝ

人いさゝゝいゝひゝあゝゝの田ゝ作者ゝの稲ゝのみゝ分く

郭公催恋（ゝゝ）

萬葉集に梅花雪忌之子孔氏云新撰万葉集に子次丹秋之草木之芝折礼者伊勢物語に倉ふこめてをりしかば久れ落四物語に北のくらふこめのかくせをちかりうゝ一十と云く是ゝゝ之子流ゝ

手束杖石塩物語真字本に塩流と見和訓栞に塩入の義とゝと塩垂の畧語ゝゝゝ侯世紀に畧と塩垂とゝゝ題考御の六条亭の事中右記著聞集指芥抄に六条家と云れども六條の誤ゝや又八条ゝゝゝ

徒然草　三女の却ひけたる丈事取あゝゝゝゝゝゝゝ男ゝゝゝゝゝ

亀山院のゝゝゝゝ女房ゝゝ若き男たゝゝゝゝゝゝゝ哥に聟ゝゝゝゝ

同ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

拾芥抄四京図在八条北西堀川西故撰磨守師信領安藝守経忠傳領

類題

いとゝしく神のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

異体集云面かけらハ夕暮小巷ニ出て
辻占をきくまつ

新撰万葉ニ折蝿手とあれハ手の
ゆゑと俗ニいひけらハ紙なたう
古今集云ちらハ時延て時ハ
なくつくと云歌
頭注ハとなれハ鳴音と云こと
なれ山さみとの里共ニ万葉ニある迹
但来猶里と云ち本にあり又猶と云
こゝろの里と続たる本もあり難定れ
名方集集ニ如此冬ニ書様又読様難定
ハなれ又玉枝ニ猶と猶
服猶と服猶と見誤てこれを
を誤てこれを
を等字形似たれハ

人麻呂
萬葉集ニ巻
三熊野之浦乃濱木綿百重成心者
雖念直不相鴨
童蒙抄云くまのゝ浦の濱
ゆふ也芭蕉の反のうらにて多く重る
之此三熊野を皆人紀国とハ思ふ是ハ
伊勢ニ又くまの浦と云浦の有又ハ
此の浦と云ハ私云ゆふハ葉の重り
なる之多く重れりとハ百重ハ百重
熊代翁云童蒙抄傍事也三熊野の
浦陸奥ニ今ハ云

一本前
ちとせ経て
ちとせ経て
夫木
「イ十三」
あらの野の
今こそ
今こそ
類題
待
郭公
夫木
こ頭注
ちとせ
ちとせ山の郭公
なを夫
なを
ふる里の里乃
まつのこえ
まえ
夫木
ちとせ
ちとせ山の郭公
類題
殿下ふて晩関郭公
夫木
今こそ
今こそ
類題
郭公
夫木
やあらぬ
やあらぬ
類題
岡中郭公
とこ手
とこ手
詞

金葉集
経信
そのかの草けのそふ出しこと
くけしらるふるもの
古今集陸奥哥
あしたおきてあしをあらもたい
ちそめのもりの山ハ
古今の哥ハ
ハ
古今集の詞百人一首え
補の哥の注も考へ

続古今
大井川ふるこえてあらの
たゝもはをそ山をろ

奈気伎森和漢三才図会諸名所集ニ
大隅と云ハ形ハ考へ

詞花
たゝ
類題
兼載雜談
郭公
夫木
郭公
類題
晩関郭公
郭公
夫木
郭公
類題
晩
郭公
郭公
夫木
郭公
郭公
郭公

六條修理大夫集

有雨のそれも形くつれ〳〵ふるはぬしらいすの人〻
はるかにをもひ〳〵前く本立頭後板后けるあの紙張仲の君の
をふ所〳〵まをひつ〳〵〳〵
行末のものをもせたまもむすえをもせてこうくるの〻〻〻〻
行りまくれ所伊あハ二見の浦のうらもしくをかりハ四月
雨のそ〻〻〻雲をのあやられ行りてやりをのをけもはられ
たまるうとと雲をのあ
四月雨のそとうろてもくせ〻たえて雨せ〻なとをすうる
前のもこのみ四月雨の時ろ行きこつけてもをひけ〻おり〻むる
末をうれ〻き涙衣の袖ようをる所のかのもたしをを白雨の
をろうくるおををおきをうををを

題注云酌うつるに下萬に酒ありとハ
あるなりとき之金水寒ふハ盃を流しの
めるうりきまふ水酌なりと云つへ
けこ家さ也酒酌なりけこのうりハ
あとりうりみるりうハ泡盛さやたこの
名之度しゆを酌へ多ハ早酒をとりやう
まりと流

題注云井川ハ所名嵯峨ありあられハ嵯
峨行幸を井川の行幸と云ふ昔ふもさの
山ゆ出たるを井川ハ井川の影とあり
今歌鳥羽方の水を井川とよむ行甲
ゆ用ふ事ハ或ハ井川行幸ハ消の名
と歌人ハ作り極楽寺の由緒ハ上もの
ハ其ものハ作り心ハ和の歌ハ定
嵯峨

題注云ふもさのさとハ此野天神の
文人をつくりたるなり御詩の心有ヲ
時菅戸免身立無故園任郷行之
作者部美云藤原公實大納言實季卿
和名抄云説文云脛和名波岐脛也釋名
云脛莖也似物莖也

十首歌中より抜書

夫木　一顕注　俊夫

うるまつけこのうもさかをひてうやをの
水ハ
ふ苗とたこのうもの
続古
ありさてふもとをあてこれ
五月雨春夏を夫ハ実のもとりあるこうて
あれるものへいるむこと
こうとて之自ふまりこ本ハ
あるくつき方ハ所ハ
左京を更絵ハ八家の家ハ
ゆ
ふ
ハ
五月
夫木　神中
仁恵法眼の妹ハ
ハ
ハ
夫木
五月
ハ
ハ

顕注云沼を水ものとハ山ハ谷の
鮒ハ石上菖蒲をいとめるハ生ハ
よりハ五月五日禁中ハ菖蒲の輿ハて
輿ハ菖蒲をつくるとあり

題注云昊ハ古今詞ハ左近の馬場のハを
りの日と云本ハ上ハ之委旨在奥儀抄
なをりの日の事ハ古今集の詞抄伊勢
物語の諸注神中抄塵添壒嚢抄出彩舟
子其外多ハ所ハ之ハ考へ
園画核菜云古今集の端書右近の馬
場の日樋の日ハ云ハ
ハ
ハ

題注云者傷ましみるさとり云ふ
その下なるとい備士とは弟士のこと
弟士のあはとふかり云て昌蒲をひく
とうあるを玉江は越前にあり又三
島江の玉江の芦もよろず夏刈の
玉江の芦もよろず寄は江をやそ
むはとも心をかはえとり
備中守使實朝臣女子根合歌
一番左　菖蒲根　周防掌侍
あやめ州ゆさしやまひくとり
まくらる根あるしとる
右　後頼朝臣
みくさる弟士のあはふかり云て
左若歌読揚詠講已甲座客相語云
和哥人事詩尤優劣可備後談也而後
無判者且難定我非不弁歌趣者虽
難定我理任参考論五三指得失懸観之
死達粗樹堂言耳唯敷思當座之興
解後華甲之題矣
あやめの葉いとれしとるあるとる
しるとるあるとる左とる見ふ事
ふかむとるとるとれは持とかとる
ヤ
和名鈔云本草云垣衣一名烏韭　和名之乃
佐久
続千載　行恵
高砂の松もの枝表　ほとり
たひとりの神ふかとる

節
あやめふいとしのんをとて
夫木　東和根合
みくさる法吉の要ふかりたて
百とて弟士とあやめの枝
堀百
我屋とい新の吉の子吉
あさうの江乃江のやめとい
夫木　川夫イ
菖蒲うるあさうの江よ風
あやうあかけとふかとて
五月男女乃日とあるとうたれい
女ふりてとる
夜ふかりふるけしとうみぬふるあやとふ

題注云者ふかふ野は所名也ぬ
かふかの本相ふとりとり寄は
さられるとつけると忘水とは野
中ふとふたる水と云云月雨
ひとの泡ぬとるとる和泉式
部ふかひとふとふ油
長秋詠草
つとふとふ波のつ五はた
ひとふとふ幸
熊代翁云或説云石上ふかとの本相
云とは二句古柄爺ふ野とひとふ
ふかとふ江ふ橋ふとふとふ
ふれふかは柄ふとふ二ふ二の寄ふかの古
寄の詞ふとふとふれは同一意ふ
此水の音の寄一本ふはふふの歌の
法ふはれり

六条宰相家哥合　五番左勝　俊頼
雲とふ行ふとふとふ
右　修理大夫上　衣
ふ雨ふふふふ里は
のふふふのふふふふ
題季御判五左の雨ふ
ふふふれふふふふ
むけふた波ふけひふふふ思
ふれふふ右のふふふふふ
ふふふふふふふ

夫木
五月雨の
家哥合
五月雨のふとふ
ふふふふふふ
五月雨のふとふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふ

作者部類云西院右大臣雅定　久我
太政大臣男
公卿補任云仁平二年右大臣正二位
源雅定
恋部ハ雅定の八条家とあれども
八条家ハ雅定の祖父ー巌記ハ
四条西洞院ハ右府第なりと
云々

題注云ふるきハ瑞籬云々事ハ
ものの古事ハ行事なり事ハ
つくるものの心なり
題注云ふるきハ百千返の
ものの前のもの
如何なる
玉勝間云ふるとハ
島ものの
後頼朝
月
遠知行事
ふるの
ふるの
年のこと

源中納言雅定の家にて五月雨のころ
あるべきことなどいひ侍りけるに
おなじ所にて
五月雨の
五月雨に
降ぬ
堀河院の中宮方にて
新勅撰
類題

大貳長實卿白河の家にて五月尽日郭公
山ごえの
類題
百首
千載
堀百
類題
山里ハ
類題
あしのやの

題注云ふるきハ後撰ハ
やまを
ハ
ものの
ものの
ものの

詞花夏

ゆりやさく門ぶもすぐり火のかをるさとのいさりびかな

照射の事は檀の材葉ふ詳ふ[illegible]但夜を並木の下つゆふ[illegible]ふ[illegible]しの蔭の目をもあいて彼をしてふ命ぜ歌木集ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

閑白忠實　知足院宇治富家ノ別業開
居結故曰富家殿
拾芥抄云富家殿民部卿忠文家也
題注云えひゝ鰹をいるこゝのこゝゝ
ハこゝ
十訓抄云大相国宰相ヲ打ル時哥
合ヲ[illegible]ル[illegible]ハ[illegible]ル時哥
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]月ハ[illegible]ル
[illegible]ル秋冬ハ谷より出る[illegible]ハ
後拾遺ハ[illegible]
題注云わちさゐの花四葉ニさてよひ
とよりう六帖哥ニ苗さす豆ハこゝ花
わちさゐの花ハよひ[illegible]
又百葉ハわちさゐ[illegible]
あつさひとるちゝ[illegible]
六度集經云蛾貪火色身見燒煮
事文聚続集云思人貪財如蛾赴火
続世継春のしらの巻云帝哥ヨミ給
ヒて[illegible]
[illegible]
加賀ノ[illegible]哥ハ梅宮筆記梅園記ハ
ニ考[illegible]
題注云古哥云塵とたゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

秦　蒙夏月
山里乃こやの[illegible]ふ[illegible]月[illegible]
別当実房の家[illegible]
[illegible]
殿下ニて夏[illegible]
秦
あちさゐ[illegible]
夏虫を[illegible]
永百　夾題
秦
[illegible]
[illegible]院[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
題注云[illegible]
磯城島大和国ニ[illegible]
志賀島の[illegible]
古事記傳ニ詳ニ[illegible]
題注云[illegible]
[illegible]
[illegible]
後拾遺
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

回国雑記標注云奥儀抄 小玉すく萱
と云萱のなりは玉のやうなるなり萱
は八月高田氏云なるすく萱もとたな
みなく心の名と云
檜下枝云玉すくしは草木のしをれ
かるくさしのまくれるなり云
梁塵愚案安抄逢路の歌の注志の
狭蔣きは秋風のをけーきさ
野分のしの紫
後拾抄云風 志のぶを吹 なと云
千五百番歌合 恋二 小侍従
たのむとも今はたのまじあふみちの
志のをすゝ人くるゝ
題昭判云後頼秋を吹と云ことは歌
下句同ー如何

題注云たつの市 うの毛のもとの所
色くろ云ふかひわらと云へり
八雲御抄云辰市 大辰日たつの心
蔭塩草云賣間清水 康光 大和
建保百首
辰の市 うの毛のしもとをくろ
人のなのなものなり

夫木 萩題
夕されは萩の葉ゝ風をうつる蛍と見けるかな 太
春の来て寒の内ちに蓬の宿の天井 さそ
ふ竹風ぬ蛍を 夏
秋 夫木
萩の葉の下の露のなかれ
避暑 夫木 萩題
うつりあるみよふきの風をうつる玉の井の里 永百 萩題
夫木百冬三雑十三
庵の家の後の水の井の里
うつる
辰の市 夫木
永の納涼 千十三 萩題

新撰六帖
秋萩の花のうつるかの井の水
なかれたえぬ秋のなりけり

漢籍黄泉とあるを和名抄に黄泉の字
を塩竈の歌集ふまへ黄泉の字
を塩竈又山橋乃立儀足山清水と
いふ御寺小黄泉の義ゝ

題注云井 筧 巖下の出
井を云 松井 ゝ
題注云曝井 万葉にあり
く行鶴れ 志賀の浦にあるす
活語雑話云行鶴 代に鶴 ラ石キサニ
テナラム泉 哥ナハステニ樹蔭ニ到 畢
リテノ意ナルシ云ゝ
言葉集云 行鶴 云ゝ

夫木 萩題
ちさとあるの山さかけの井 片山夫
宵ゝ世の中乃あつ
世の中乃あつ
水を綱縄 萩題
泉をゝ
石井つ
百ゝ
井ゝ
氷室

仁徳天皇紀云夏顕田天中彦皇子獵于闘鶏云〻在其野中者高宮矣啓之曰氷室也云〻

千載集　覚性法親王

夫木抄　清輔

宇都保祭使巻云あさ日さすかふ
三句うけもう　催馬楽飛鳥井の河
の水集ふけも所と方ハ兼之

白川殿七百首　為氏

夫木　類題

類題

夫木

千載　夏草

続詞　類題

夫木　夏三雑四

類題

白川殿七百首　為氏

山下ゝ水の　陸奥のしのぶ山の
後撰集恋三　ものゝ
らてつゝ
亮子冊子云俊頼朝臣の
悦目抄　久雲御抄云哥合
八雲御抄云経信卿
用の俊頼ハ雨後野草小
作者部类云大宮太政大臣伊通公大
納言宗通男
山槐記云太政大臣　伊通公　亭九條北
堀川東堂也
兵範記云左府　伊通公　亭八条町尻
和名抄云大和国十市郡

永百蟬

夫木　堀河

金葉　类題

古来風体

新古今　ちゝ

続詞

夫木　家金

新古

玉葉雜一　崇德院

ひとのこゝろ　たゝ　ぬ　つ　世の中ふ

風雜恋四　公護

恨　ふ　こ　ゝ　て　あ　る　こ　ゝ　ろ　ふ

右三首詞ふ下句異ひ　ひ　て　ろ　ゝ

ろ　の　之

空浦云今世田舍ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ふ　ゝ　ゝ　葉の

袴又掃の度文草は刈捨たる　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

て　ゝ　ゝ　ゝ　と云　ゝ　ゝ　敷物の表ふ下

有り床の敷さ迄部の家ふ生間ふ

蔓屑を敷て住居ゝ也　て　シキ　と

ス　ゝ　と　迄て　言通れ　ゝ　ゝ　敷を多

と　詞て云り物を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　例作物

所　ま　ゝ　拾物ゝ　卧猪の床　ゝ　ゝ　の巻

捨遺　黒草　負外下

ま　て　て　ふ　ゝ　ゝ　ゝ

萬葉集　廣河女王

恋草呼力車三七車積而恋良久
吾心柄

顕注云たもハ魚をゝ[illegible]物ゝ[illegible]ゝ鯉
子ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝハ無服ゝ

新撰字鏡小倦傍倦也須年也考志
又伊止奈志ゝ有ゝ[illegible]ハ無服ゝ[illegible]
注ハ[illegible]ゝ山口栞嬰ゝ筆話考

顕注云ゝ[illegible]ゝ以縄魚ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ魚の外ゝ[illegible]ゝ被取ゝ[illegible]ゝハ
白縄引ゝ云ゝ是ハ鵜川ゝ[illegible]ゝ

夫木

[illegible]

永百

[illegible]

夫木

[illegible]

夫木

[illegible]

永百

[illegible]

夫木

[illegible]

新撰字鏡云撰井久比
[illegible]ハ発語ゝ[illegible]ハ別ゝ

後撰　伊勢物語　六帖

[illegible]

類聚国史云天長九年六月己丑越
前国正税三百束給作彼国荒道山
道人坂井郡　秦乙麻呂

雲二集中
[illegible]

夫木

[illegible]

水風如秋

旅中　[illegible]

夫木

[illegible]

類題

蓮花

夫木

[illegible]

類題

百[illegible]

[illegible]

夏風

和訓抄云ふこゝ〳〵六月祓とゝ山夏越のき〻哥小神をかこゝろる意ふとゝろ國大曆の說是を指遣は六月の祓こゝ〳〵のゝゝゝ